

催涙ガススプレー（護身用催涙ガススプレー）

[概要]

1994年夏ごろからカタログ販売されている痴漢撃退用の催涙ガススプレー。当センターの調査では、アメリカやドイツからの輸入製品で、口紅サイズのものから警防型まで、様々の容器、容量の製品がある。成分はトウガラシ抽出液とメタノールを主成分（数%）とする製品と、クロロアセトフェノン（1%以下）とする製品があり、フロンや窒息性ガスが噴射剤として使用されている。3)

[毒性]

カプサイシン（トウガラシ中のアルカロイド）

ヒトの鼻粘膜に75µg塗布すると、やけるような感覚、くしゃみ、漿粘液分泌を生じる。 1)

メタノール 比経口最小中毒量 3429mg/kg 4)

比経口最小致死量 143mg/kg 4)

クロロアセトフェノン 比吸入最小中毒濃度 20mg/m³、93mg/m³/3min

比吸入最小致死濃度 159mg/m³/20min

経口ラットLD50 50mg/kg 4)

[症状]

トウガラシ抽出液製品では、吸入すると激しくせき込み、眼に入った場合には、痛みにより眼が開けられず、大量の涙が出る。
皮膚につくと、焼けるような強い炎症性の痛みを伴う。1)

クロロアセトフェノン製品では、高濃度で吸入すると、上気道刺激、肺水腫、眼に入るとやけるような痛み、流涙が30分以上続く。眼瞼浮腫、眼瞼痙攣、一過性の失明。高濃度では、角膜混濁の報告がある。
皮膚につくと、水疱形成、皮膚炎、熱傷、過敏性皮膚炎をおこすことがある。5)
経口では、嘔気、嘔吐、下痢等をおこすことがある。1)2)

[処置]

家庭で可能な処置

新鮮な空気の所へ移動

接触した眼や皮膚を大量の水で洗う。眼はこすらない。

コンタクトレンズ装着時ははずし、付着した衣類は脱ぐ。

医療機関での処置

特異的な解毒剤はない。

対症的に治療する。

[情報提供時の要点]

(1)量にかかわらず受診を指示。

(2)汚染した恐れがあるときは、眼、粘膜、皮膚を流水でよく洗う。

(3)成分の確認が必要であるが、ちなみに容器にOCの表示があれば、

トウガラシ抽出液、CNの表示があればクロロアセトフェノン製品である。

[中毒学的薬理作用]

カプサイシン：神経を脱分極させ、血管拡張や平滑筋の興奮、知覚神経末端の活性化を起こすような物質をカプサイシンが遊離させるといふ説や、ある種の知覚神経を初期に強烈に興奮させ、その後長時間、物理化学的刺激に対して無感覚にさせる作用があるといふ説がある。

クロロアセトフェノン：一過性のS H酵素阻害

[その他]

法的規制はなく、高圧ガス取締法の該当品である。

日本国内での携帯・所持は合法とされているが、旅客航空機への持ち込みは出来ない。

[商品名]

トウガラシ抽出液製品 ペパーメイス（旧名：ファースト・ディフェンス）
ペパーメイスMKシリーズ

クロロアセトフェノン製品 TW1000シリーズ
（別名：催涙ガスTW1000シリーズ）
スタンダードからスーパーまで10種類の商品がある。

[参考文献]

- 1)warfare agents、Poisindex、V.80、1994
- 2)Lacrimators、Tomes、V.21.1994
- 3)メーカー資料
- 4)RTECS、1994
- 5)中毒百科、1991